

調査結果の概要

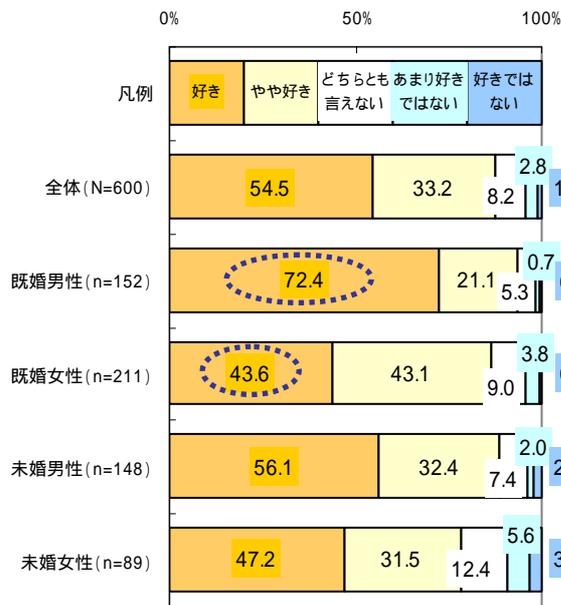
《牛肉大好き！ “食べたい夫” と、他の肉で代用可能 “米国産にこだわらない妻”》

牛肉を使ったメニューの好き嫌いを見ると、既婚男性は特に「好き」の回答が多く(72.4%)、牛肉を食べる頻度も減らしたくない(29.6%)と考えています。

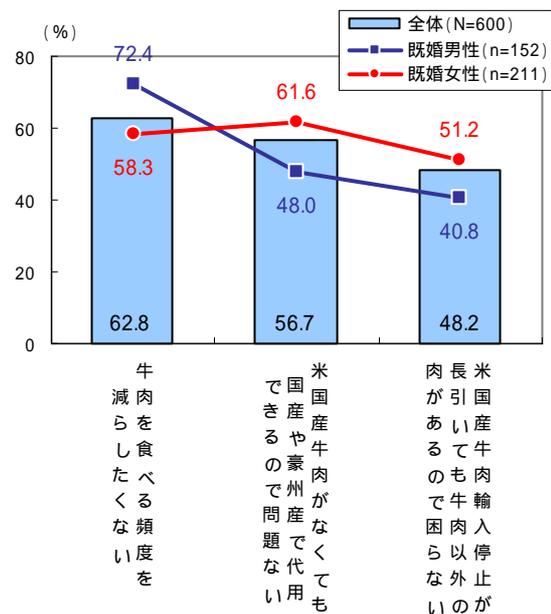
一方、既婚女性は「好き」が43.6%、牛肉を食べる頻度を減らしたくないとの回答も18.0%に留まっている上、国産牛やオーストラリア産牛、牛肉以外の肉で代用できると考えている層が多く見受けられます。

男性の方が女性よりも牛肉好きで、食生活に欠かせないものと考えていることが伺えます。

牛肉を使ったメニューの好き嫌い

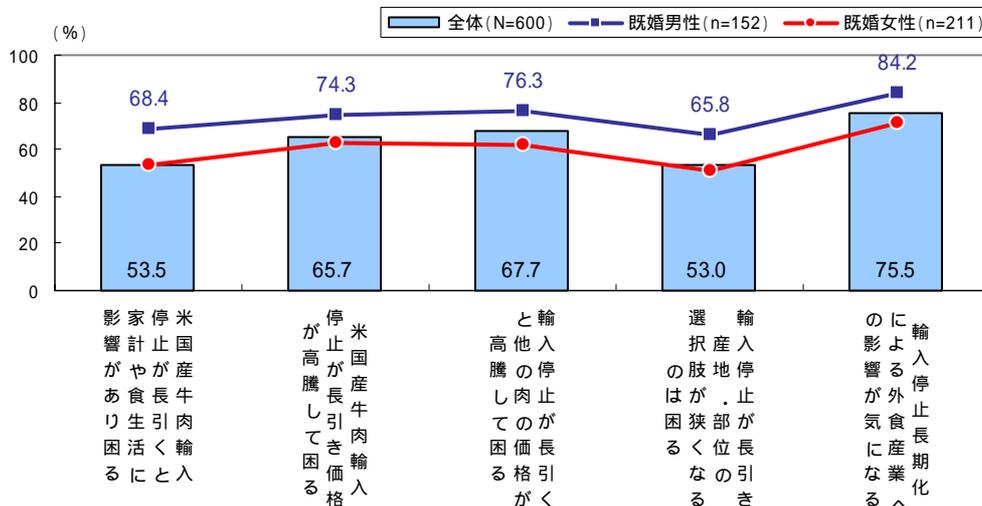


牛肉食用に対する態度(「そう思う」「ややそう思う」計)



また、輸入停止長期化による牛肉の価格高騰については既婚女性よりも既婚男性で関心度が高くなっており、意外に家計や外食などお金(価格)を気にする夫の姿が浮き彫りになっています。

輸入停止長期化で困ること(「そう思う」「ややそう思う」計)



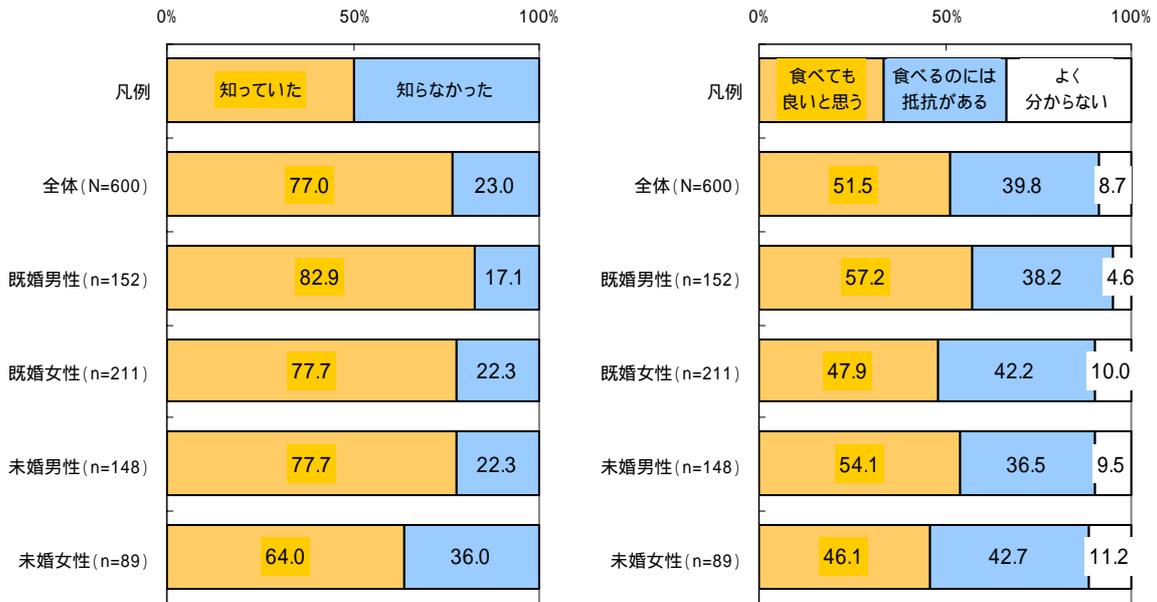
《アメリカ産牛肉輸入解禁：夫は容認、妻は慎重。》

では、アメリカ産牛肉の輸入再開についてはどうでしょうか？

特定危険部位の認知を見ると男女問わず高くなっており、全体の約 8 割が「知っている」と回答しています。

しかし、危険部位を取り除いた牛肉なら食べても良いと考えている割合を見ると、既婚男性で 57.2%が「食べても良い」と回答しているのに対し、既婚女性は 47.9%に留まっており、約 10 ポイントの差が見られます。

特定危険部位認知と食用意向

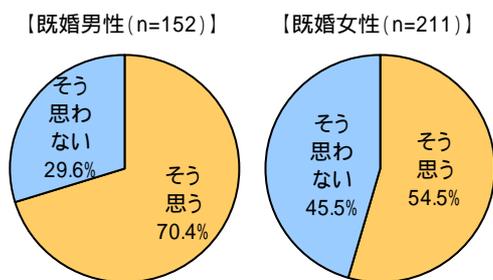


《安全性に関する情報を得た上で、自分で判断。選択肢を欲しがっている》

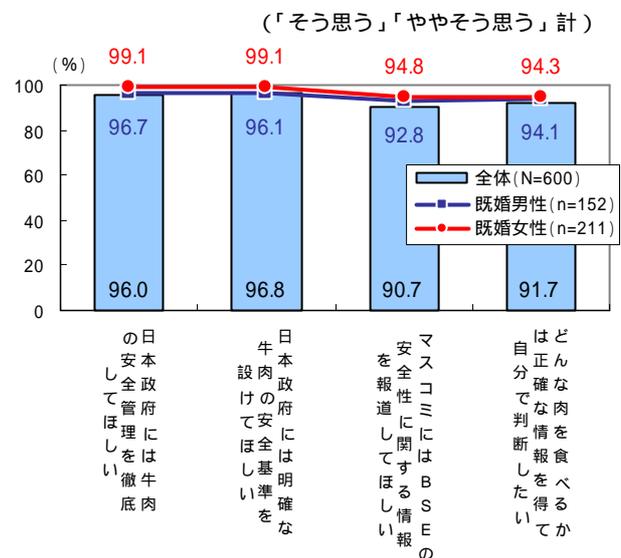
牛肉の輸入解禁については、既婚男性は容認派が多く、約 7 割が「米国产牛肉の輸入を早く再開して欲しい」と回答しています。

一方、妻は、「政府に安全管理を徹底して欲しい」「明確な牛肉の安全基準を設けて欲しい」「マスコミには安全に関する情報を積極的に報道して欲しい」と回答しており、自分たちが食べるものは、正確な情報を手に入れた上で、自分で判断したいという姿勢が伺えます。

輸入を早く再開して欲しい



牛肉の安全性と輸入解禁について



《調査設計》

調査テーマ : アメリカ産牛肉の輸入停止 3 ヶ月後の消費者意識を把握する

調査対象者 : 20～40 代の男女

調査エリア : 関東・関西

有効回答数 : 600 サンプル

		20代	30代	40代	計
関東	男性	50	50	50	150
	女性	50	50	50	150
関西	男性	50	50	50	150
	女性	50	50	50	150
計		200	200	200	600

調査方法 : インターネット調査

調査時期 : 2004 年 3 月